

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

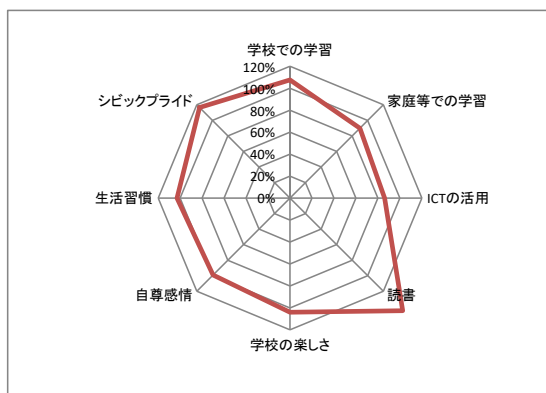
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無解答の問題は記述式が多いが、それでも記述にチャレンジした生徒は正答率が高い。漢字など分からないものは書かないという生徒も多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・記述式の問題に取り組み、書いた生徒は正答率も高い。	
	努力が必要な問題	・書くのが苦手でも、少しずつでも書くこと。漢字や歴史的仮名遣いなど基本的なことをおさえる。	

数学	全体的な傾向や特徴など	・記述式の問題で無解答率が高く、数学的に説明することが苦手な生徒が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・与えられた表やグラフから、情報を適切に読み取ることができている。	
	努力が必要な問題	・ある事柄が成り立つことを証明する問題に課題が見られる。	

英語	全体的な傾向や特徴など	・聞く、書くの問題が苦手な生徒が多い。また、記述式の問題は特に苦手な生徒が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・日常的な話題について、自分の置かれた状況から判断して、必要な情報を聞き取ることができている。	
	努力が必要な問題	・社会的な話題について、短い説明の要点を捉える問題に課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・全教科において、全国平均を上回る結果となった。さらに、教材や学習形態（ペア・グループ学習や話し合い活動）を工夫し、生徒が主体的・対話的に取り組む授業の改善を図っていく。また授業の終わりに、本時の学習内容を振り返る活動を設定し、授業の学習内容の確実な定着を図り、生徒が「わかる授業」づくりの継続的な取り組みを推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、課題（宿題）の内容や量について各教科で共通理解を図るとともに、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・指導を行う。全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭・小中学校が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。